

■振興審議会 第2回専門部会 会議録

【概 要】

第1回専門部会で意見をいただいていた第四次総合計画の総括(案)について、事務局より修正内容を提示し、振興審議会委員に再度意見をいただいた。その後、第五次総合計画骨格(案)について、事務局から市民意向調査の単純集計の分析、ながい市民未来塾からの提案、庁内会議での検討結果を説明し、骨格の方向性について協議していただいた。

【委 員】

○総務専門部会(10/18 開催)

・委員 北川忠明委員(部会長)、渡部秀一委員、安部義彦委員、青木孝弘委員

○文教専門部会(10/17 開催)

・委員 加藤弘二委員(部会長)、吉田重成委員、鈴木周子委員、磯村志津香委員

○厚生専門部会(10/24 開催)

・委員 勝見英一朗委員(部会長)、高石祐子委員、齋藤真知子委員、平吹登委員、(欠席)竹田喜博委員

○産業・建設専門部会(10/23 開催)

・委員 齋藤道郎委員(部会長)、横澤泰雄委員、馬場先委員、勝見裕子委員、(欠席)野村浩志委員

【協議内容】

◆第四次総合計画総括(案)について

○総括資料全体について

(A 委員) この総括の資料は次期計画に載るものかどうか。

→(事務局) 第5次総合計画には載らない。あくまで市民への報告として公表する資料。

(B 委員) 総括資料、図表がついてわかりやすくなった。雇用、産業創出に関連して、医療、福祉についてだが、例えば雇用創出すれば医療費が削減されるとか関連するものがある。高齢者関連の課題もポジティブなこととネガティブなことがある。ネガティブなところも図などでわかりやすくしてもらいたい。

→(事務局) 検討する。

○協働について

(C 委員) 協働について、前回会議でも意見した所だが、NPO へのアウトソーシングが増えた。公共活動の団体も増えた。こういう現状の累計について、何らかの形で成果報告を出してほしい。市民の生の声や数値など。もう一つ、例えば市民直売所1つとっても各団体との調整は手間取ったと思う。我々は、担当者の苦労とか人の経験から何かを学び取るもの。総括にも、そういう記述があっても良いので

は。ケース事例を 2〜3 出すとか。市民側はそういう事例が入っていた方が読みやすくなると思うので検討頂きたい。

→(事務局) 全体の総括は今後行うので、そこにケース事例を入れ込んでいくことを検討したい。

○情報化について

(C 委員) 情報化の項目について、市ホームページへのアクセス数は増えているが、情報掲載数は減っていたのがわかる。情報については、行政と市民との共有を今後 10 年の計画で重要視していったらどうかと思った。

→(事務局) 市民と行政との情報共有は協働の基本と考える。表現を検討する。

○環境について

(D 委員) 「不法投棄」について、市で具体的にどんな対策をしたのか。

→(事務局) 市民課生活環境係で、市報やチラシで広報してきた。ほかに衛生組合連合会との連携で小学生のポスター募集など。広域組合で、30㎡以上の不法投棄は公費で処理。県のヘリ見回りなどを行ってきた。市民の取り組みとして、「小さな親切の会」の清掃活動なども行われている。

→(D 委員) 散歩していると犬のフンなどが結構ある。子どもの頃からの意識づけも大事。

○学校について

(D 委員) 「学区制度」について見直しが必要とはどういうことか。

→(事務局) 中学校の学区見直しというよりも、今後家庭の事情などに合わせて柔軟に対応できるよう制度の見直しを検討するということ。親の都合で市内で転校せざるを得ない場合などへの対応を既に一部行っている。

◆第五次総合計画骨格(案)について

○市民意向調査の分析について

(A 委員) 市民意向調査の満足度・重要度について、A ゾーン(満足度が低く、重要度が高いもの)に上がってきたものをもう少し説明をお願いしたい。例えば商工業、観光、雇用ということだが、それが骨格(案)と合っているのかどうか。

→(事務局) まだ集計途中なので、グラフを見るしかないが、概ね合っている。

→(B 委員) 山形大学で分析途中だが、興味深い結果。例えば P6〜7 の「生きがい」について、半分近く「わからない」と答えている。「社会貢献」、「余暇」でも半分以上が「わからない」と回答している。つまり、社会的に活動していない人の力を今後有効活用できると考えられる。

(E 委員) 回収率 45.6%というのは十分な数字か。半数以上の方がまだ意見を表明していないということ。意見を表明していない人の意見はどのように汲み取っていくか。

→(事務局) この数字は市民の方々のまちづくりに対する関心度の実態であり、真摯に受け止めなければならない。今後、各地区で説明や話し合いを重ねていく予定なので、そこで市民の方から広く意見を聞い

ていきたい。

(F 委員) アンケート調査結果は50代以上が7割という結果。若い世代の回答率が低い。どんな街になったら住みたいか、など今後中高生への聞き取りも重要ではないか。

→(事務局) 意向調査では低年齢の意見は確かに薄くなっている。補完する方法が何かないか考えている。例えば、クロス集計をかけて若者の意向を確認することなど。また、少年議会の参加者等への聞き取りなど、若い世代の意見を吸い上げる努力していく。

(G 委員) 子育て支援について、「まあ満足」と「やや不満」と回答が割れているのはどういうことか。

→(F 委員) 子育ての環境について、時間外・休日保育あるから満足とか、医療費補助あるから安心とか、外で遊べるところないから不満とかいろいろと意見あると思う。

→(H 委員) 子育てに対して、お年寄り若い人の間でも考え方の違いがあると思う。お年寄りは昔ながらの育て方だが、若い人はそうではない。

→(G 委員) 同じ条件でもまったく違う観点からみると意見が違ってくる。お年寄りと同じくして預けられるから安心して働けるなど。中身を分析してほしい。

→(事務局) フェイスシートで書いてもらった家族構成などの情報を用いて、クロス集計をすることで、具体的な分析をしていく。

○未来塾からの提言について

(I 委員) 未来塾からの提言で、村松ゼミの「計画が形骸化しないために」という視点は重要と思う。形骸化しないためにも、もう少し目標を絞り込んでいったほうがいいのか。

○雇用、産業振興について

(B 委員) 問題なのは雇用。行政ではなく、あくまで民間で拡大することが必要。今は団塊世代が退職し、お金がある高年齢者が増える傾向にある。お金を持っている人に起業してもらい、行政が出来ることはそれを支援することぐらいしかない。

(C 委員) 長井は製造業中心に発展してきた町。製造業は担当者毎に分業している。その歴史があり、働き方も分担しているため、自分で起業することを考えてこなかった。この土壌を踏まえると起業はなかなか難しいと思う。でも喫緊にやらなければならない課題。例えば土地所有者と利用したい人をつなげるという支援の仕方もあると思う。

(I 委員) 雇用創出は、そもそも役所でできる仕事なのかという疑問がある。行政ができることには限界があるのではないかと思う。市民意向調査で商工振興や雇用創出に重要かつ不満が多いのは、一般的な意見でなく、個人的な、身内の状況からくる気持ちが反映されているのではないかと。

→(J 委員) 市民意向調査で、商工振興・雇用創出に焦点が集まるのは、若い世代の受け皿がないということを感じているからではないか。若い人が長井市に住まなければ、長井市は尻つぼみになるだけだと思う。

→(I 委員) 雇用が最優先課題なのであれば、やる前から効果・結果に囚われるのではなく、とにかく次々に手を打っていくしかないと思う。

(K 委員) 市民の多くは大きな企業が来ないかなと思っているように見受けられるが、それは難しい。今は企業が海外に出ていく時代。現状にすぐ効く特効薬はない。

(L 委員) 新しく雇用を作るのは現実的に無理だとすれば、今ある雇用を維持することが大事。利益を増やして雇用を増やすような機運が全体で醸成されればいいと思う。大卒者が戻ってこられるような職種を設けてもらえれば尚良い。東北人は忍耐強いということで、他のまちではコールセンターを誘致する動きもあるようだ。

(N 委員) 長井市における企業誘致は、工業的なものを考えているのか。商業的なものを考えているのか。「企業誘致」というと工場を想像してしまう。交通の便の問題があるが、イオンやアウトレットなんかを作ることができればあちこちから人が集まるのではないか。

→(事務局) 働く場の創出は、一人企業も含めて医療、福祉、商業などすべて含めて考えていかななくてはならない。工場の誘致ばかりではなく、農業における 6 次産業化や起業支援なども必要になってくる。

○農業について

(D 委員) 耕作放棄地の解消にはどうしたらよいか。長井はまだ良い方だが、近隣では荒れているところが増えているようだ。世界的には食糧難なのにもったいない。

→(L 委員) 農業をやりたい人は潜在的にいると思うが、道が探せない。農業について教えてくれる人がいるなど、きっかけになるようなことがあれば、耕作放棄地の所有者と農業をやりたい若者や仕事を探している人を結べるのではないか。

→(事務局) 今は、新規就農者への国からの補助金がある。一定の所得が保障される。本気でやるなら道はある。

→(L 委員) はじめから本気で農業の世界へ飛び込むにはハードルが高いと感じる。農業法人に雇われて教えてもらいながらやるなら抵抗は少ない。補助金だけではなく、やりたい気持ちがある人が農業の世界に入れるように育成する方が大事ではないかと思う。

○地域循環型経済について

(O 委員) 地域循環型経済という考え方が大事。地方は国がどうだとか、人のせいにしてしまっている。地域で何とかしなければならぬ。雇用が拡大されても消費が他所で行われ、例えば仙台が潤っては意味がない。まちにあるものをまちで大事にする。その基本として、レインボープランが核になるのでは。これからはレインボープランを産業にしていけることも検討すべきだと思う。

○高齢者に関する視点について

(A 委員) 幸せとは何かと問われると、医療、福祉がしっかりしていれば老後も安心だと感じる。最重要課題の(案)4 つには高齢者の視点が入っていないが、取り入れる必要はないか。モノではなく、心の豊かさへのシフトが今後の傾向。老後の住みやすさなども大事。

→(事務局) 高齢化はデメリットだけでなく、メリットとして捉え、元気な人、力のある人が活躍する場が必要と考えられる。職員によるグループワークでも、必要と思われる施策に「元気な高齢者による起業を支援する」というのがあった。知識豊かな高齢者による起業はまだ可能であるかと思う。

- (H 委員) 最重要課題の(案)に高齢者福祉に関するものがない。入れた方がいいのではないかな。
例えば、高齢者の居場所づくりについて、長井でももっと力を入れられないか。
- (E 委員) 地域ごとだと集まりやすいと思うが、長井だと高齢者の居場所づくりはどうか。
- (事務局) 現在、老人クラブやミニデイサービスなどで、生きがいのためのボランティア活動、花づくり活動などに取り組まれている。
- (G 委員) ミニデイサービスについてだが、台町は非常に進んだ取り組みをしている。宝くじの助成金をもらってコミュニティセンターを建てたが、中には厨房もあり、有事のときに炊き出しもでき地区単位で助け合えると感じた。これからは自治公民館が力をつけていかなければならない。
- (E 委員) 昔は多くが農家だったので昼間でも地区の活動に関われたが、今はほとんど雇用されて働いている人なので、昔のように公民館活動をするのは難しくなっている。

○長井の魅力づくりについて

- (A 委員) 最重要課題の(案)に挙げている「長井の魅力」とは具体的には何か。
- (事務局) これは幅の広いもの。例えばレインボープラン。既存のものを高める、新しいものを作る、地域特有のものを作り出すということなど。
- (C 委員) 長井の地域資源はいくつもあるが、長井の「人の魅力」についても重要視してもらいたい。例えば匠の技とか、観光ガイドはこの人にやってもらいたいとか、魅力ある人は沢山いると思う。企業は人をコストとして見る。行政も近年そういう傾向があったのではないかな。これは辞めなければならぬ。人は財産。人を育てるには、ある程度投資もしなければならぬと思う。最重要課題の「魅力づくり」には「人」も入れてもらいたい。
- (L 委員) 長井の魅力ということでは、伝統文化や歴史的建造物も含まれると思う。

○情報の共有について

- (C 委員) 市民参加をまちの力とするために、行政の持っている高品質な情報を開示したらどうか。例えば冬は雪で消火栓が埋まってしまう場所があるが、あらかじめ場所がわかっているならば除雪を行うことができる。また、市民に消火栓の里親になってもらうなどの動きが作れる。オープンガバナンスの考え方が必要。
- (O 委員) 行政の情報をどこまで出すかも課題があるだろう。
- (事務局) 地域の協働のマネジメントと行政情報の活用はこれまで挙げられたキーワードにないので、どのように入れ込んでいくか考えていきたい。

○工業団地について

- (B 委員) 今後の方向性について、新規の工業団地を整備することが本当に良いのかどうか。既存の団地を整備した方が良いのか。
- (事務局) 既存の他、新規の工業団地整備も含めて考えている。市民意向調査でも、工業団地を整備し企業の立地を促進すべきと高い意向が出ている。
- (事務局) 長井市の平成 25 年度重要要望事業で出している。国道 113 号線沿いに考えている。道路沿いに

工業団地の新規整備は難しいと思う。他周辺市町とも連携しながら、産業団地を造りたいと考えている。

○長井の心について

(N 委員) 文教部門の重要課題にあげられている長井の心とはどのようなものか。

→(事務局) 長井市出身の彫刻家長沼孝三氏がふるさとを思って書いた詩であり、長井の教育の柱としているもの。平和や人間形成の重要要件など、大切なことが記されている。

○子育て支援について

(D 委員) 結婚したいが結婚できないという現状は問題。この世に生を受けたが自分が楽しければいい、結婚や子どもはいらぬという人が増えているのではないか。そういう分析はしていないか。

→(事務局) そういった分析はできていない。今後議論していきたい。

(D 委員) 県の教育振興計画に「命をつなぐ教育」も入っているが、実際はできていない。そのあたりの教育をどうするかも問題。命を大切にすることが重要視されているが、つなぐ部分はまだ弱い。

【今後の進め方】

・10～11 月に庁内専門部会、庁内本部会議で再度検討する。

・12 月 20 日(木)に振興審議会全体会を開催する。第四次の総括と第五次の骨格の検討を行う。